

都立大ボラセン

— 都立大から生まれるボランティア活動 —

Vol.7



特集1

2024年度「ボランティアプログラム」活動を開始しました

特集2

「第39回 南大沢夏まつり」に参画しました

特集3

青鳩祭・みやこ祭に出展しました

学内団体 News
&
Activity Gallery

- ・ 都立大子どもまつり行委員会
- ・ 学生コーディネーター
- ・ LINKtopos2024 In IWATE

目次

特集1

2024年度「ボランティアプログラム」活動を開始しました 3

特集2

「第39回 南大沢夏まつり」に参画しました 12

特集3

青鳩祭・みやこ祭に出展しました 14

学内団体 NEWS & Activity Gallery

都立大子どもまつり実行委員会 17

学生コーディネーター 19

LINKtopos2024 In IWATE 23

2024年度 「ボランティアプログラム」活動を開始しました

ボランティアプログラムとは、本学の学生に向けたボランティアセンターオリジナルのボランティア活動です。事前・事後学習など学習と連動した活動を年間を通じて継続的に行うことで、社会に貢献することを通して学びを深め、社会のボランティアリーダーとなることを目指します。活動内容の企画や運営は学生を中心に行っています。

2024年度は、スポーツボランティアプログラム、地域ボランティアプログラムの2つに取り組み、スポーツボランティアは14名、地域ボランティアプログラムは24名、計38名がプログラムに参加しています。

今号は、2024年度前半の活動の様子を学生の感想と共に振り返ります。

■ 事前学習 I

日時：2024年6月29日（土曜日）

講師：室田 信一 先生（人文社会学部）

内容：ボランティア活動を多角的に捉え、自分がボランティアに参加する動機を深掘りする



自分が漠然ともっていた、ボランティアに参加したいという気持ちを言葉にできてよかった。

実際にメンバーがどう思っているかを知り、今後改めていくべき部分を知ることができた。

動機を考える際、自分が考えていなかった動機を新たに発見できた。

自分が参加したいと思った動機ややってみたいことを話し合う機会が設けられていてよかった。

漠然と何かの運営に参加したい！という意思のみで参加してしまったが、多くの人に出会い考えに触れたことで、少しずつ活動の本質に近づくことができたように感じた。



1年目の動機を振り返った上で今の動機も見直す機会になってよかった。

スポーツを通じて、心身の健康や笑顔、人とのつながりを生み出すことで私が目指したい人とのつながりをつくれると思った。

誰かに動機を話すことで自分の中の気持ちが明確化していくのを感じた。



2024年度 「ボランティアプログラム」 活動を開始しました

■ 事前学習Ⅱ（スポーツ）

日時：2024年7月20日（土曜日）

講師：信太奈美先生（健康福祉学部）、瀬上健司様（東京都障害者スポーツ協会）、
宮崎雅也様（日野市社会福祉協議会）

内容：スポーツ、とりわけ障がい者スポーツの歴史や特性、課題等について理解し、そこにボランティアとして関与する意義や効果を考える



活動中には考えない歴史や意義などを改めて学ぶことで、本来どういった意義があったのかを学ぶことができた。



「全員が楽しめる」ように行動したい。



経験したことのなかったボッチャをすることができ、その楽しさを自分がわかっていなければボランティアとしての役割を果たしきれないと考えた。

「支える」「支えられる」の関係性は常に固定ではなく、変化していくものであることに気づかされた。

ボッチャの体験を通してパラスポーツを身近に感じられた。



楽しいという気持ちが人を動かしているということも、講義や実際のボッチャ体験から感じた。

スポーツこそ、多様な人々が参加できる最適な機会である！

■ 事前学習Ⅱ（地域）

日時：2024年8月8日（木曜日）

講師：加藤英寿先生（理学部）

内容：松木日向緑地をとりまく地域の歴史や特性、課題等について理解し、そこにボランティアとして関与する意義や効果を考える



実際に活動場所や道具を見ることで活動のイメージが膨らんだ。

続けたいと思ってもらえるような活動をするためにはやりがいが必要だと思った。



実際に竹林・緑地を歩いてみてから発見できたことや気づきでも多くあった。

ボランティアそのものの意義を学んだ事前学習Ⅰと、竹林保全の現状を理解できた今回を合わせて、より一層学びを深いものにすることができた。

竹林に足を踏み入れたことで自ら体験することができ現状や課題を目で把握することができた。



整備等の基軸となる活動を大切にしつつ地域交流や情報発信等の発展的な活動につなげていきたいと認識した。

実際に日向緑地を歩き、説明を聞いたことで、活動に向けた具体的なイメージをつかむことができたと思う。春先に比べて竹がかなり増え、ますますうっそうとしてきたことに驚いた。



■ スポボラカフェ（スポーツ1回目）

日時：2024年8月9日（金曜日）

内容：メンバー同士の交流を兼ねた企画立案、ゴールボール運営に関する知識の継承



初めてのスポボラカフェの企画で、企画検討、実施という流れで、競技に対する理解を深める点でとても良かったと思う。今回は参加人数が少なく、一つのグループで話し合ったが、複数グループがあると、より様々な意見が反映された企画を考えることができるので、やってみたいと思った。昼休みにも、メンバー間で交流があったのも楽しく和やかな雰囲気でも良かった。

グループワークで発言することに苦手意識があったため今回の活動に参加するか迷ったが、参加してみて、企画立案の楽しさや難しさを実際に感じられて良かった。



よかった点としては企画の時点で様々な意見が出たこと、反省点としてはもっとやったことがない人の視点を取り入れることが挙げられると思いました。



リーダーだけでは思いつかない案も多く、何か普段からアイデアをきく機会があると良いなとも感じた。



午前中はゴールボール体験教室の企画・立案を自分たちで実際にしてみた。そのなかで、ゴールボールの理解が深まった一方、企画の難しさを実感した。限られた時間のなかで、良いものを企画したいと思いつつ、ある程度妥協をしなければいけないもどかしさも感じられたように思う。また、午後の実践を通して、午前中に出した案に無理がある点が存在していることにも気付くことができた。企画することは簡単でないことを強く感じた。この経験を、今後のボランティアで活かしたい。



■ ボッチャ体験会@イオンモール多摩平の森（スポーツ2回目）

日時：2024年9月23日（月曜日・祝日）

内容：日野社会福祉協議会の協力のもと、ボッチャの魅力・認知度普及のため体験会を実施した。



楽しかった・面白いと言ってくれた方がいて、やってよかったと思いました。課題としては、どれだけ分かりやすくするかと正式なルールを知ってもらうかのバランスがあると感じました。



予想以上に参加者が多く、楽しいという声を多くの方からいただいたり、何回も参加してくださる方もいた。一方で、ルールの改変をどこまで行うかは検討する必要があると思った。（イベントの目的や参加者の年齢層を加味して事前にもう少し考えておく必要があったと思う）

思っていたよりも自分自身が楽しく活動できたのが良かった。



お子さんが来た時は必ず同じ目線で声をかけ、笑顔で接することができた。説明が不十分でボッチャ本来のルールを伝えることができなかつたところは悔やまれる。準備から参加させていただき、想定と違うことも多くあったが、臨機応変に対応できたと思う。次回の活動では仲間との連携を大切に、スムーズに活動を進めたい。



ボッチャ体験会にお越しいただいた皆様、イオンモール多摩平の森の皆様、及び日野社会福祉協議会の皆様、ありがとうございました。

■ 竹林十遊歩道整備（地域1回目）

日時：2024年9月29日（日曜日）

講師：加藤英寿先生（理学部）、橋上健司様（ひなた緑地遊学会）

内容：竹林や遊歩道の現状を知り、竹の伐採の技術や知識を通じ、緑地保全について考える。



成果が目に見えて達成感が感じられて良かった。ビフォーアフターの写真を撮っておけば良かったと反省した。

遊歩道が歩きやすくなったのが何より良かった。数時間の活動でこれだけ変化させられることに驚いた。竹が倒されるときに起きる風が心地よかった。古くて倒れやすい竹を手の支えとしたのが危険だったので、今後はつかまる前に竹を揺らして確かめたい。

活動の危険なところをもっと教えることができれば良かった。

遊歩道の草刈りや竹伐採後の日光の差し込みなど、目に見える成果があるとさらに活動が楽しくなると改めて感じた。



竹を切っていると、あとちょっとのところでもノギリが抜けなくなることが何回かあったので今後の活動を通じて上達していきたい。

今まで斜面以外でもななめに切り込んでいたが、平地ではむしろ平行に2本入れて方がよい。長い竹を切断する時に挟まってしまった場合は逆手で逆から切り込むことで簡単に切り落とせることに気がつくことができた。



草刈りや竹の伐採に集中すると、意外と周りが見えておらず足場の悪いところに立ってしまったり、「倒れます」の一声を忘れてしまったりすることがあったので今後気をつけたい。また、竹に切れ込みを入れるときに、節や筋を避けて力強くひと思いにノギリを引くことで予想以上に力をかけずに伐採が可能だと気づいた。数時間の作業で見違えるほど明るく、歩きやすい空間となり、驚いた。虫除けを散布してもかなりボコボコに刺されてしまい、作業が辛く感じた瞬間もあったが、不快感が吹き飛ばすほどに達成感を感じることも出来た。

2024年度 「ボランティアプログラム」 活動を開始しました

■ 日野市・みんなといっしょの運動会（スポーツ3回目）

日時：2024年10月6日（日曜日）

内容：日野社会福祉協議会主催「みんなといっしょの運動会」にて運営サポートを行う。



普段の生活ではあまり関わることのない、障がい者の人達と一緒に運動会に参加できる貴重な体験だと感じました。楽しそうな顔を見ることができて、参加して良かったなと思いました。また来年参加者が増えるよう伝えていければと思います。



子供たちと一緒に楽しみながら活動できた。



日野社会福祉協議会の皆様、ありがとうございました。

■ 竹林整備（地域2回目）

日時：2024年10月20日（日曜日）

内容：竹の性質・切り方・ノコギリの使用方法的レクチャー、竹の伐採体験、緑地整備を行う。



多くの人を楽しみしっかり切ることができた。
些細な工夫で問題が上手く
解決したので、発想を柔軟に持ちたい。

想像していたより斜面が急だったり竹を
落とすのに力が必要だったりして驚いたが、
作業を進めるうちに少しずつ慣れることが
できた。初めは暗かった竹林に作業後は光が
入るようになり、目に見える結果を得られて
達成感が感じられた。初めてで経験者の方
たちにたくさんサポートしてもらいながらの
作業だったが、「助け合った方が早いし
楽だよ」と声をかけていただいて、とても
温かい雰囲気の中安心して取り組めた。

初参加でしたが、遊学会のお二方やボラセンの方が
しっかりと説明・アドバイスしてくださったので
安心して作業に取り組むことができました。一人で
取り組むのは困難かつ危険であるということも
再確認したので、次回以降も竹を切る際の
「倒れます」をはじめとした声かけを大切に
したいと思いました。竹を崖の下に落とす時の
ストレス発散や竹を伐採したことで光が多く入り込
みスッキリとした感覚も味わうことができました。
また今日は強風でしたが、竹の中では密になった
竹が風を遮って心地よい空間になっていると
感じました。

竹が思ったよりも足場の悪いところに生えて
いて、かなり高さがあった。
かなり硬いが、意外と簡単に切り込みを
入れることができた。

斜め切りは大変！



■ 竹林整備＋竹モルック教室の準備（地域3回目）

日時：2024年10月26日（土曜日）

内容：屋外での作業の安全対策を学ぶ、竹の伐採、緑地整備＋スポーツボランティアプログラムメンバーと一緒に「竹モルック」体験教室の準備（竹の加工、ルール確認など）



竹の扱いや、切り方、枝払いにも慣れることが出来たと思う。今回は声かけを十分に行うことができたと感じている。グループで一本ずつ相談しながら竹を切って行ったほうが安全であり、その途中のコミュニケーションも楽しく感じた。

竹の切り方はちゃんと覚えていたが、体力がついてきていなかった。



今回は竹を斜めに切ることの難しさを実感した。また、ノコギリの刃の面を広く使うことで、小さな力でも素早く切ることができることを実感した。

チーム内においては状況を捉えられたが、他チームの立ち位置を把握し続けることは難しい。



竹を切るコツを掴み、慣れることについては、切る速度は格段に上がったと思うが、まだまだ慣れない場面もあり、特に重たい竹を扱い慣れるのは難しいと感じた。

竹モルックについて知り、スポーツプログラムの方々と協働することを目標にしていたが、モルックについて知らないことが多い状態でのスタートだったため当日のイメージが掴みきれなかった。だが、実際にモルックに取り組んでみる中で、スポーツプログラムの方ともお話できたり、竹を加工したり、有意義な時間を過ごせたと思う。切っただけで終わりではなく、加工して実用化することでさらに達成感を味わえると思った。



「第39回 南大沢夏まつり」に参画しました



2023年に続き、2024年も「南大沢夏まつり」に都立大チームとして、17名の学生が参画しました。今回の出店ブースは、スノードームづくり、お面づくり、謎解きの3つを開催、130人近くの子どもたちが来訪してくれました。学生が参画した理由や準備の様子から当日の様子まで、学生の感想と共に写真で振り返ります。

開催日時：2024年7月27日（土曜日） 場所：大平公園

参画の動機+準備の様子

夏祭りを盛り上げたい!という
思いから参加した。

去年もボランティアに参加して
楽しかったから今年も参加した。

地元の祭りに育てられたから
その恩返しに参加した。

もっと南大沢のことを知れたらなと
思って参加した。



企画する段階において、様々な意見が
出てきてよりよくなっていった。

夏まつり当日前1週間。準備が間に合うか
怪しかった上に、当日の天気に不安があったが、
協力してラストスパートをかけることができた。

集まっている人が少ないと、最終決定に踏み込め
ないときがあった。少人数で決めたことが、
大人数の同意を得られるのか不安があった。

色々な人が予定を調整して準備を間に合わせよう
と頑張っているのだと思ったのを覚えている。

企画を考える時に、何が子どもたちのためになるか、
どうしたら楽しんでくれるか、去年との差別化など、
楽しんでもらえるような企画を色々考えた。また、
作業をする中で「色々な形にしたら子どもたちが喜んで
くれるかな？」など工夫を凝らして単調にならないよう
に努めた。

的外れでも、先に進むためにとにかく
他の人たちとの会話を大切にしようと考えた。



当日の様子



夏祭り当日、都立大ブースの運営が一通り終わった後、盆踊りを踊っていた際に、老若男女問わず楽しそうな顔をしていた。

来訪してくれた子どもが、仮面のマッキーを離さず、15分くらいこだわりの完成像まで作り上げていた。

来てくれた子が喜んで帰ったときこっちも嬉しくなった。



親御さんに「去年スライム作りとか景品貰ったのが楽しくて、今年も都立大があったから来ました」と言われた。



自分たちが企画し、考えたイベントにおいて、子どもたちが喜んでくれたり、ありがとうと言ってくれたりしたので、自分たちが作ったことが参加者のためになっているんだなと実感した。

一つの地域の夏祭りでここまでたくさんの人が笑顔になっていることに感動した。



「地域に大学があって良かった」と思って貰えるきっかけにもなったと思う。



青鳩祭・みやこ祭に出展しました



2024年も、都立大学の各キャンパスで行われた学祭に出展しました。10月12日は、荒川キャンパスで開催された青鳩祭にて、スポーツボランティアプログラム主催の「スポーツ体験教室」を開催。スナッグゴルフとモルックを楽しんでいただきました！

11月2日は、南大沢キャンパスで開催されたみやこ祭にて、スポーツボランティアプログラム・地域ボランティアプログラムの初合同企画、「竹モルック」体験教室を開催。どちらの企画にも、沢山の地域の方にご来場いただきました。それぞれの当日の様子を、学生の感想と共に写真で振り返ります。

10月12日 青鳩祭の「スポーツ体験教室」



活動を見ているなかで、メンバー同士や参加者と積極的にコミュニケーションをとり、楽しそうにしている様子が見られた。また、参加者の中でも複数回来られる方や何回も連続して体験される方も多く、たくさん笑顔が見られた。

参加者の方に「楽しかった」、「面白かった」と言ってもらえたので、とても達成感があった。コース設定も余ったボール等を使って良い塩梅で作れたと思う。たまたまやはりスナッグゴルフの方がスピーディーに終わる為、モルックをやる迄に待ってもらう人が発生した。モルックを来年も実施するのならば、もう1セット用意するなどの工夫が必要かもしれない。



今回の体験教室は正規のルールではなかったものの、ある程度モルックについて理解することが出来たように思う。体験教室の開始前は、自分自身がモルックをやった経験がないということもあり不安も大きかったが、経験者に教えてもらったり、実際にやっていくなかで、段々と自分も楽しむことができた。子どもは前から投げてもらうなどの工夫をしたことで、年齢差や体格差関係なくモルックの試合を楽しんでもらえたと思う（実際、子どもが大人に勝つことも何回かあった）。課題としては、一試合の時間が長いこともあり、お客さんを待たせてしまう場面もあったため、時間は再度検討し直しても良いのではないかと思います。

ルールの工夫を柔軟に行ったことで、参加者の方のレベルにあった企画実施を行えたことと、楽しかったと言ってもらえたことがよかった。

参加者の皆さんが楽しかった、面白かったと言ってくれたのがとても嬉しかった。難易度設定やルールを午前中に検討しながら準備をしたが、それが全員が楽しめるものにできたのだと思う。

反省点としては、体験を通して、競技について興味を持ってくれる方も多く、どういう競技なのか質問をされた際に、詳しく説明することができなかつたので、あらかじめ競技への理解を深めることも大切であると思った。

私自身も、スナッグゴルフを初めて体験したが、競技の面白さを実感しながら、参加者への声掛けや説明をして競技を楽しむことができた。



青鳩祭・みやこ祭に出展しました

11月2日 みやこ祭の「竹モルック」体験教室

(スポーツボランティアプログラムメンバーの振り返り)



年齢に合わせて投げる位置を変更したり、待ちの人たちがなるべく出ないように対戦形式にしたり、点数の調整をしたりと、ボランティア同士で相談しあいながら対応することができた。

初めての合同企画としては大成功ではないでしょうか。私自身も地域ボラの方たちと交流できるのはよい経験でしたし、お互いの活動についての理解を深める良い機会になったと思う。年に何度か合同企画があっても面白いかも。



多くの親子連れを中心としてご来場いただき、モルック楽しかったというお声をいただいた。また、ボラセンやボランティアプログラム自体にも興味を持っていただけた。ただ、ボラセンやボランティアプログラムについての説明がある資料を持ってくればよかったとあとで感じた。

参加者が雨関係なしに楽しんでやっている姿を見て、こちらも元気もらったような気がした。また、小さな子どもから大人の方まで幅広い年齢層の人たちが体験してくださり、モルックは本当に誰でも楽しめる競技(運動が苦手な人でも)であると改めて実感した。

事前準備で初めて竹を切ったりと初めての経験ができた他、普段関わることのない地域ボランティアの人たちと一緒に活動できたのが良かった。



モルックを楽しんでもらえて良かった。カランと鳴る竹の音が良かった。学祭全体を通してこのように体を動かすイベントが少なかったので、パンフレットへの記載やチラシによる宣伝を増やせばもっと多くのお客さんに来ていただけたと思う。

準備段階からお互いの要素を体験でき、どんな形でもお互いの活動内容が分かるような交流の場があると嬉しいなと感じた。

▶▶▶ 続く

青鳩祭・みやこ祭に出展しました

11月2日 みやこ祭の「竹モルック」体験教室

(地域ボランティアプログラムメンバーの振り返り)



自分も参加者のようにモルックを楽しみながら運営できた。会場も遠く雨も降っていたので人が来るか心配だったが、かなりたくさんの方が来てくれて嬉しかった。自分たちで準備してきたもので楽しんでもらえてよかったと思う。



雨にもかかわらず多くの方に参加していただいたのはよかった。実際にやってみて楽しいゲームだと思えた。



今回は別日にモルック体験会を設けたり、準備の時間で未参加のメンバーに説明する時間も取れたので、昨年度より時間の余裕があったように思われる。運営方法はスポボラの方々に大変お世話になり、スポーツのルール決めるときも思ったが、メンバーにもお客様にも分かりやすく説明しているのを見て流石だと感じた。今後も多くの人を取り込むような大型イベントで連携することで、様々なノウハウがお互いに身につく良い機会になると思った。

地域ボラ、スポボラ問わず活発なコミュニケーションを取れたため、自分の立ち位置を各々が把握しているように感じられた。リーダー間でまたやりたいとの声が上がリ、双方の視点を取り入れたイベントを考えたい。

お客さんとモルックをやる機会があり、とても楽しかった。私個人としては、大学祭の機会を利用してボラセンの取り組みや松木日向緑地のことを知ってもらえるような説明ももっとできたら良かったと思う。スポーツボランティアの方々と交流もまた機会があれば参加したい。





都立大子どもまつり実行委員会

今回は、2024年8月23日（金曜日）に、南大沢キャンパス7号館で開催された「第2回都立大子どもまつり」についてお伺いしました。

1 子どもまつりを開催しようと考えた理由は何ですか？

2024年8月の開催で2回目を迎えた「都立大子どもまつり」ですが、2023年の1回目は「とにかく多くの子どもたちに大学内で楽しんでもらえるイベントをやりたい」という思いから始まりました。

私が大学1年次だった2022年はコロナ禍が明けたとはいえ難く、依然として活動に制限がありました。

ようやく制限が明けた2023年こそ、多くの子どもたちに来て欲しい、子どもたちに外に出て自由に遊んで欲しいという思いがありました。子どもまつりというイベントを通じて地域と大学、学生同士の交流の場にもなれば、という思いもありました。

「イベントが楽しかった」という子どもたちの声、「子どもと一緒に楽しめて良かった」という親御さんの声はどうしても忘れられず、主催する団体を新たに設立し、2024年に第2回を迎えることができました。

2 今年実施した子どもまつりの内容を教えてください。

今年の子どものまつりは昨年度から参加団体を増やし、10のサークルに参加していただきました。

人形劇やジャグリングのパフォーマンスをはじめ、東北カルタや環境問題クイズによる学べるブース、いきもの園や鉄道模型などの見て楽しい展示、バルーンアートやプラバンづくり、スライム作りなどの参加型ブース、ポケモンバトルやストラックアウトなどの遊べるブース、さらには休憩できるスペースなどもご用意しました！それだけではなく、ブースに関するクイズや「おかしドロボーをさがせ！」というパンフレットに書かれたドロボーを探すイベントも用意しました。広報を強化したおかげか、昨年の来場者を大きく上回る約1400人の方に楽しんでいただきました。

3 今年の子どものまつりを開催した中で、一番「心が動いた」場面を教えてください。

まつりの終了時間に、帰っていく子供たちに対して全員でアーチを作ってお見送りをした瞬間です。

子どもまつり開催に協力してくださった様々な団体のメンバーさんたちと一緒にアーチを作りました。そこでジャグリングサークルが様々な技を披露してたり、人形劇サークルが人形を持って子供達にバイバイしてたり、バルーンアートサークルが風船を渡してくれたりなど、全員が一致団結して子供達を最後の最後まで楽しませていて、とても感動したことを覚えています。全員がひとつの目標に向かって尽力する体制が構築できたように感じました。

また、子どもまつりの1年生メンバーが、初めての環境にもかかわらず主体的に仕事を探して自分のすべきことをちゃんとこなしていて、とてもうれしかったです。

4 子どもまつりを開催した中で、苦労したことは何ですか？昨年と比較して教えてください。

昨年度からの変化として、今年度から「都立大子どもまつり実行委員会」という主催団体を立ち上げたことで、よりいっそうイベント開催への責任の重みが増したことが挙げられます。多くの子どもたちを大学内に呼びこむというイベントの特性上、安全管理に手を抜くことはできません。施設を管理する大学側とも協議を重ねました。ブースを出展して下さるサークルさんとの調整なども行いました。

2年目の今年はより規模を大きくするという方向性もあり、地域の方への広報や当日の来場者の安全確保など、主催者として考慮する内容も増えました。そうした準備を経て迎えた2年目の子どもまつりでしたが、多くの来場者に恵まれ、また大きな事故なく終えることができました。苦労した分だけ、より大きな達成感を得ることにつながりました。





都立大子どもまつり実行委員会

今回は、2024年8月23日（金曜日）に、南大沢キャンパス7号館で開催された「第2回都立大子どもまつり」についてお伺いしました。

5 都立大子どもまつり実行委員会にとってボランティアとは何ですか？

私たちにとってボランティアは活動動機の原点です。子どもまつりを開催する目的は「子供たちの笑顔を作り最高の思い出を持ち帰ってもらう」ですが、活動する中で「自分が子供達の笑顔を作るイメージ」を全員が持つことが最高のイベントづくりにおいて重要です。まつりをただ開催する団体では開催準備の際に目的が不明瞭になり中だるみしてしまいます。そのイメージ作りのために日頃から地域と密接に関わって地域の祭りに参加したり、防災キャンプイベントを運営したりなど積極的にボランティアをしています。また、そこで一緒に遊んだ子供たちが実際に子どもまつりにたくさん来てくれるので、そこで再会した時にさらなる楽しさが生まれます！

6 都立大子どもまつり実行委員会のPRをお願いします！

今年度から設立した団体ですが、メンバー14人全員が責任を持って運営に携わっています。「自分にできることはなんだろう」「どうしたらより子どもたちに楽しんでもらえるだろう」とみんなで意見を出し合い、より良い子どもまつりになるように日々話し合いを重ねています。子どもまつりの運営だけでなく、地域のボランティアやビーチクリーンなど部員同士仲良くわいわい活動しています。まだまだ始まったばかりの団体ですが、来年再来年とさらに楽しい子どもまつりを開催できるように精進して参りますので、ぜひ「都立大子どもまつり」に足を運んでいただけますと嬉しいです！また、出展していただける団体さんがいらっしゃいましたらぜひお声がけください！

Activity Gallery

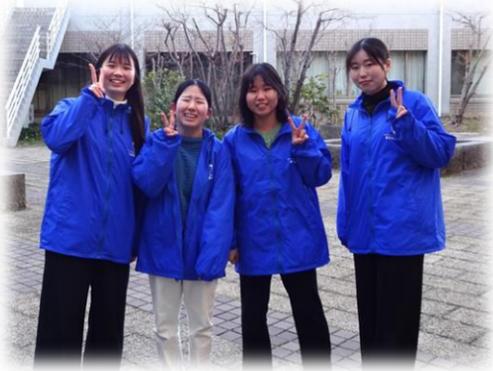
その1



当日ご来場いただいた皆様、コメントにご協力いただいた代表の井上さん、副代表の小松さん・竹迫さん、誠にありがとうございました！

【都立大子どもまつり 連絡先】

- Mail tmukodomofes@gmail.com
- X [@tmukodomofes](https://twitter.com/tmukodomofes)



学生コーディネーター

2024年9月18日（水曜日）に大阪公立大学I-siteなんばで行われた大学ボラセンEXPO2024に初参加。翌日は、大阪公立大学の中百舌鳥キャンパスV-stationにて、双方の交流会を実施。楽しく有意義で、実りある時間を過ごすことができました。今回は、参加した本学学生コーディネーターの意見を伺いました。

1 大学ボラセンEXPO2024に参加してみて感じたことは何ですか？

コーディネーターAさん

主に関西圏の大学との交流を通じて、大学ごとの活動の多様性を感じました。ボラセンによって学生に任される範囲や組織構成、スタッフの採用方法などが異なり、特に都立大の学生コーディネーターは他大学と比べて人数が非常に少ないことが衝撃的でした。他大学の事例を聞くことで、都立大ならではの良さや改善点があると感じました。また、どの大学でも共通して、ボランティア活動への情熱を感じました。

コーディネーターBさん

一言で「ボラセン」といっても、その組織体制は大学ごとによってかなり異なる点が印象的でした。例えば、本学のボランティアセンターでは部署は存在しませんが、他大学では多いところで100名を超える学生コーディネーター（および学生スタッフ）が部署に所属し、部署での活動を通してボラセンとしての活動を行っていることに驚きました。組織体制の多様さが、それぞれの大学ごとのカラーにつながっているのかなと感じました。

コーディネーターCさん

他大学と比較して都立大は非常にボランティアセンターを運営する人数が少ないということに驚いた。このように構成人数のことや広報手段のこと、企画運営のことは互いに情報を共有し合わなければそもそも自分たちがどんな特徴を持つかもわからないため、他大学について知ることができて良かった。

2 大学ボラセンEXPOで得られたものを教えてください。

コーディネーターAさん

大学ボラセンEXPOは、改めて都立大ボラセンについて考える機会にもなりました。発表の機会を通じて、プレゼン力や伝える力、自信が少しずつ身についたと感じます。トークセッションでは、広報の方法や使用する媒体について議論し、自分にはなかった視点からのアイデアを得ることができました。特に広報は都立大ボラセンの課題でもあり、話し合った内容は今後の改善に役立つ貴重なものとなりました。この経験は、今後の活動に大いに活かせると感じています。

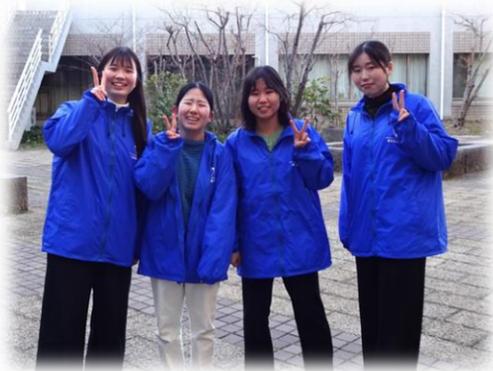
コーディネーターBさん

都立大ボランティアセンターとしての強みを実感しました。大学ボラセンEXPOに参加した8大学の中では、本学は最も学生コーディネーター数が少なかったです。しかしパネルディスカッションを通して、その少人数であることは話し合いの集まりやすさ、さらには物事を決定する際の意見の反映の度合いが高いことにつながり、結果的に学生コーディネーター自身のやりがいや責任感に大きな影響を与えていることに気づくことができました。

コーディネーターCさん

関西圏の大学は交流の継続は難しいかもしれないが、他大学のボランティアセンターとの縁を得ることができたと感じられる。また、他大学での広報や企画の工夫について知ることができたため、私たちの今後の活動に活かしていきたい。





学生コーディネーター

2024年9月18日（水曜日）に大阪公立大学I-siteなんばで行われた大学ボラセンEXPO2024に初参加。翌日は、大阪公立大学の中百舌鳥キャンパスV-stationにて、双方の交流会を実施。楽しく有意義で、実りある時間を過ごすことができました。今回は、参加した本学学生コーディネーターの意見を伺いました。

3 大阪公立大学との交流で感じたことは何ですか？

コーディネーターAさん

大阪公立大学の学生スタッフは、自分の興味ややりたいことが明確で、それを企画として形にする姿がとても印象的でした。また、学部1、2年生を含む若い学年の学生も積極的に活躍しており、経験や学年に関係なく挑戦できる環境が素晴らしいと感じました。さらに、学生スタッフ以外の人も気軽にボランティアセンターを利用できる、オープンで親しみやすい雰囲気も魅力的でした。このような取り組みは非常に参考になりました。

コーディネーターBさん

大学入学当初である学部1年の時期から、ボラセンの活動に携わっている方が多いと感じました。本学のボラセンに所属する学生コーディネーターは、大体学部2年になってから一員となるケースが多いため、新入生が入学してまもない時期からボラセンと関わりを持っている点に驚きました。学生コーディネーターの1人として、より学生の皆さんにボランティアセンターの認知度を上げていきたいと思いました。

コーディネーターCさん

今回は午前中に公園の清掃ボランティアをしたが共にボランティア活動をするのでお互いにボランティア活動への姿勢が分かったり、作業しながら話することが出来たりするからか、接しやすくなるのだと実感した。



4 大阪公立大学との交流で得られたものを教えてください。

コーディネーターAさん

今回、初めてゴミ拾いボランティアを経験しました。想像以上に多くのゴミが集まり、自分が普段周囲に無関心に過ごしていることを感じました。また、大阪公立大学の方々の熱意や取り組みに刺激を受け、自分たちの活動をより良くしたいという意欲が高まりました。さらに、個人のボランティアに対する思いを語り合う中で、自分自身の価値観や意義を見直す機会となりました。この交流で得た大阪公立大学との縁を今後も継続し、さらに深めていきたいです。

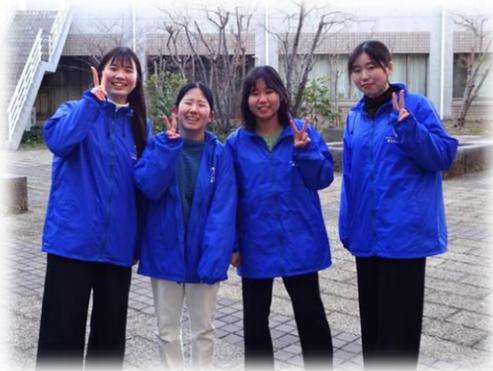
コーディネーターBさん

活動の場の居心地の良さの重要性を改めて認識しました。2大学合同で清掃のボランティア活動をした際に、大阪公立大学の方々のおかげで和やかな雰囲気で行うことができました。交流全体を通して、ボランティア活動の現場であったり、学生コーディネーターのミーティングであったり、どのような場でも誰もが自分で考えて動くことをためらわずに行える環境を整えることが必要だと感じました。

コーディネーターCさん

大阪公立大学とのつながりを得ることができた。今後もつながりを継続し、情報共有をしたり共に活動することができたらなと思った。





学生コーディネーター

2024年9月18日（水曜日）に大阪公立大学I-siteなんばで行われた大学ボラセンEXPO2024に初参加。翌日は、大阪公立大学の中百舌鳥キャンパスV-stationにて、双方の交流会を実施。楽しく有意義で、実りある時間を過ごすことができました。今回は、参加した本学学生コーディネーターの意見を伺いました。

5 今回の研修で学んだこと、これからの活動に生かしたいと思ったことは何ですか？

コーディネーターAさん

交流を通じた視野の広がり大きな学びとなりました。他大学では、学生がシフト制でボラセンに在室しているところや、広報の媒体として、X・ホームページ以外にInstagramや公式LINEを用いているところがあると知りました。大学外、地域外での交流だからこそ、今まで気づかなかったことや新しいアイデアを得ることができたと思います。今後活動するにあたって、行き詰まったときに、学んだことを参考にしていけたらいいなと思います。

コーディネーターBさん

活動へのモチベーションを保つ大切さを学びました。学生コーディネーターの数が多い大学では、企画の核となる意思決定や自分のやりたいことに携わることが難しいという話を伺いました。自分が意思決定や企画に主体的に関われるかどうかは、学生コーディネーターのモチベーションにも通じる面があると思います。だからこそ都立大ボラセンの強みである少人数を生かして、今まで以上に主体的にかつ話しやすい環境を大切にしていきたいと考えました。

コーディネーターCさん

今回の研修で改めて自分の外の世界を見ることが重要だと実感した。他大学とは人数の観点からできること・できないことは多くあるが、それらを強みとして、今後の活動をよりよくしたい。また、他大学が実施していることも都立大ボラセン用に企画を練り直して実施していきたい。

【ボランティアコーディネーター視点から】

6 大学ボラセンEXPOの参加・大阪公立大学との交流会を経て感じたことを教えてください。

本ボランティアセンターの学生コーディネーターたちは毎年度当初に、「学生コーディネーターが目指すもの」を設定した上で活動などしています。今年度は目指すものの1つに、「ボランティアを通じた新たな出会いを自身の成長に活かす」というものがありました。今回の大学ボラセンEXPO2024参加、そして、大阪公立大学との交流は正に「目指すもの」に合致したものだったと思います。きっかけは2022年の秋、「阪公戦のように、ボランティアセンターとしても交流をしていけたらいいですね」と大阪公立大学ボランティアコーディネーターの松居さんとお互いの「思い」を話したことでした。今回実現に至ることができ、大変嬉しく感じております。

私が好きな言葉の1つに「書を捨てよ、街へ出よう」という言葉があります。ボランティアにおいてこの感覚は、とても大切なものだと思います。今回参加した学生コーディネーターたちは「街へ出た」ことで、様々な“気づき”があったのではないのでしょうか。

私は本学に入職以来、「公立大学にある大学ボランティアセンターの役割」を模索してきました。

今回、2009年から大学の部署として設置され、運営している大阪公立大学ボランティアセンターV-stationの取組みを伺えたことは、コーディネーターとしても学ぶべきことがいくつもありました。学生自身の思いや活動を大切に、地域との協働や学びの場づくりなどを継続されて15年の実績につきましても、惜しみなくご教授ただけたことに感謝しております。

ここから「継続して学生同士が交流し、学び合える関係づくり」をしていけますようお願いしつつ、学びを活かしたより良い「東京都立大学ボランティアセンター」を目指したいと考えております。



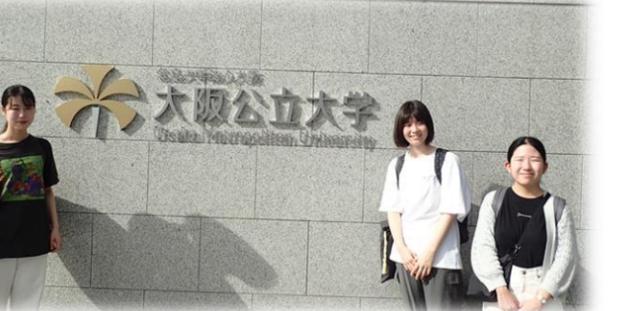
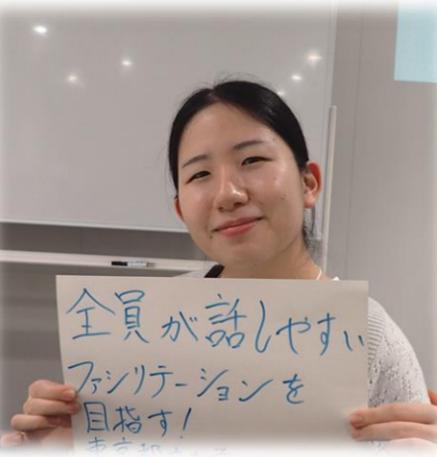
大学ボラセンEXPOに参加の皆様、そして大阪公立大学の皆様、素敵な機会をありがとうございました！

Activity Gallery



学生コーディネーター（大学ボラセンEXPO&大阪公立大学との交流会）

2024年9月18日（水曜日）に大阪公立大学I-siteなんばで行われた大学ボラセンEXPO2024に初参加。翌日には、大阪公立大学の中百舌鳥キャンパスV-stationにて、双方の交流会を実施しました。今回はその様子をご紹介します。大阪公立大学の皆様、ありがとうございました！

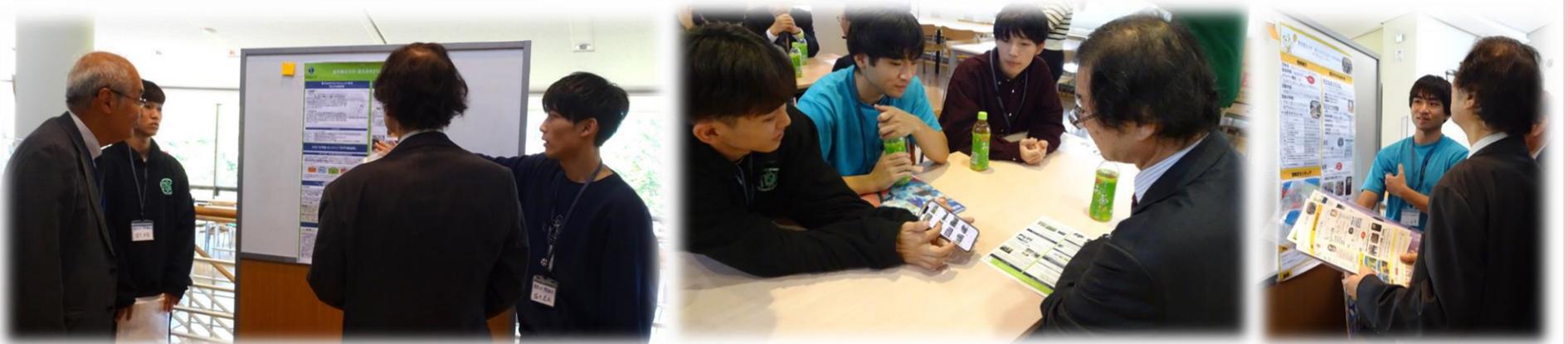


Activity Gallery



全国公立大学学生大会（LINKtopos2024 In IWATE）

2024年10月12日（土曜日）～14日（月曜日）の3日間、岩手県立大学にて行われた全国公立大学学生大会（LINKtopos2024 In IWATE）に、本学からは3名の学生（東日本きずなプロジェクト、都立大子どもまつり実行委員会に所属）が参加しました。当日の様子を写真で振り返ります。



ボランティアセンターからのお知らせ

1 2024年度大学生ボランティア活動報告会を実施します！

2025年3月17日（月曜日）に、2024年度に本学学生が行ったボランティア活動の成果を発表する場として、大学生ボランティア活動報告会を実施します。今年度のテーマは「Rethink >>>> ~あなたにとってのボランティアとは?~」。ボランティア活動を通じて得られた成果や、活動に取り組んできた思いを学生の言葉でお伝えします。皆様、是非お越しくください。

▶ 2024年度大学生ボランティア活動報告会

【日時】 2025年3月17日（月） 13:00~16:30（予定）

【場所】 東京都立大学 南大沢キャンパス 1号館1階 110教室

※ 入場は無料ですが事前申込制となります。詳細はWEBサイトをご確認ください。

2 「学生の声」 好評配信中！是非ご覧ください！

ボランティアセンターのWEBサイトでは、ボランティアを通じて活躍する学生の声をお届けしています。学生コーディネーターや、スポーツボランティアプログラム・地域ボランティアプログラムの参加者、ボランティアセンターに登録のある学内団体の学生や、ボランティアセンターを通じてボランティアに参加した学生等、様々な形でボランティアにたずさわる学生が、どのような思いや理念をもって活動しているかお伝えします。毎月1度更新予定です。下記URLからご覧ください。

▶ https://volunteer.tmu.ac.jp/news_pr/volunteervoice/

3 ボランティアの相談はフォーム予約をご活用ください！

ボランティアセンターでは、ボランティアに関する相談をお受けしています。どんなボランティアがあるの？ボランティアってどうやって始めたらいい？といった都立大生からの相談や、学生のボランティアを募集したい、といった地域の方のご相談も可能です。下記URLからご予約ください。

▶ 【都立大生向け】 <https://forms.office.com/r/LAiQFW2aAL>

▶ 【地域の方向け】 <https://forms.office.com/r/ke1QMnYnAb>

表紙の写真

左上：学生コーディネーター
大阪公立大学との交流会



右上：都立大子どもまつり実行委員会
第2回 都立大子どもまつり



左下：ボランティアプログラム
（地域・スポーツ合同）
みやこ祭の「竹モルック」
体験教室



右下：南大沢夏まつりチーム
第39回 南大沢夏まつり



東京都立大学ボランティアセンター Newsletter
「都立大ボラセン」 Vol.7

発行元：東京都立大学ボランティアセンター
発行日：2025年1月31日（金）

所在地：〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1
1号館1階 ボランティアセンター

Tel：042-677-1354

Mail：tmu-volunteer@jmj.tmu.ac.jp

WEB：https://volunteer.tmu.ac.jp/

X (旧Twitter)：@tmu_volunteer

東京都立大学
ボランティアセンターの
最新情報は
こちらのQRコードから
check！

X (旧Twitter)



公式WEBサイト

